

# 国際交流部会が勉強会を開催しました

## SDGs の視点から地域国際交流を考えよう

原リーあんず（国際交流部会長）

9月14日(土)、サンロード6階大会議室で、国際交流部会主催による協会員向け勉強会『SDGs の視点から地域国際交流を考えよう』が行われました。

今、国際交流部会は、年齢性別や国籍を問わず、幅広く個々の主体的なボランティア活動を尊重し、パートナーシップ（協働）によるより良い習志野市の共生社会づくりを考える活動を目指しています。

これまで4月より毎月1回、神田外語大学の石井雅章さんを講師にお招きしてワークショップを行ってきましたが、今回は最終回として、『SDGs を自分ごと化するためのワーク』を通して、習志野市の国際交流について考え、学びました。

この日は10代から70代までの協会員と関係団体から計25名が参加し、グループワークとディスカッション、最後に石井さんによる全体説明で、たっぷり3時間を楽しく有意

義に過ごすことができました。終わってみて、私たちにできることは身近なコミュニティ内での交流であることをあらためて実感しました。

1人1人が当事者意識を持って「自分ごと」化すること、そしてそれを身近な人と共有できるのはまさに交流からです。交流は、まず身近なコミュニティ内の自分の周りに小さな平和をもたらします。そこに生まれた小さな平和が、結果としてコミュニティ全体へ広がっていくのです。これまでの活動をそのように見直すことが必要でしょう。多様化する社会の中で、時代にあった身近な交流について、常にあらゆる方向にアンテナをはりながら、さらなる活動への意欲をかき立てられる勉強会となりました。

最後に、4月からずっとお付き合いいただきました石井さんへ部会員一同心より感謝申し上げます。

《2015年の国連総会で採択された『持続可能な開発目標（SDGs）』では、あらゆる人たちが属性や能力に関わらず、人間らしく生きていける持続可能な社会づくりが目指されています》

### 石井雅章氏プロフィール

神田外語大学 言語メディア教育センター長。准教授。市民や自治体、企業向けにSDGsを開発、実践し、SDGsの『自分ごと化』について活動している。



グループワークでは、SDGsのアイコンのイメージをめぐってディスカッション

